

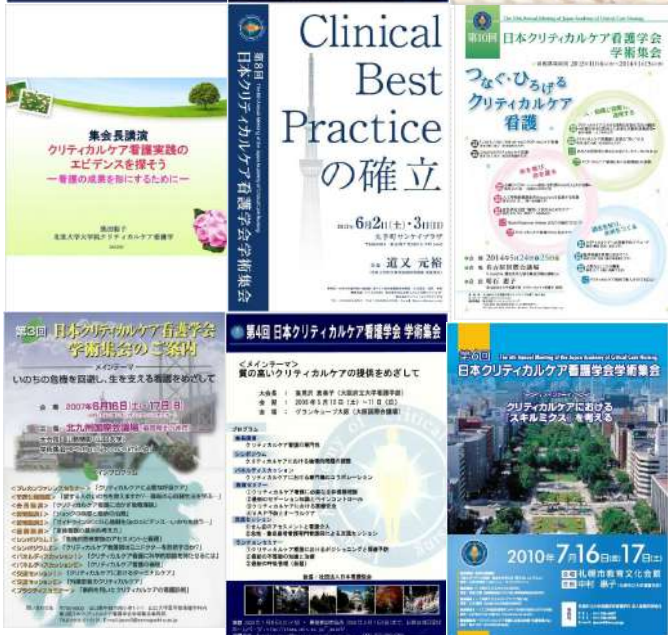


News Letter

発行責任 日本クリティカルケア看護学会 広報委員会
【一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会事務所】
〒162-0833 東京都新宿区笹塚43 新神楽坂ビル2階
TEL : 03-5946-8847 /FAX : 03-5229-6889
E-mail : jaccn@supportoffice.jp

- 目次
1. クリティカルケア看護学会 設立20周年を迎えて (井上 智子氏)
 2. 第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会を終えて (宇都宮 集会長)
 3. 委員会報告 (国際交流委員会)
 4. 編集後記

JACCN



1. クリティカルケア看護学会 設立20周年を迎えて



日本クリティカルケア看護学会
学会開設委員 第1・2期理事長
井上 智子氏

今年のように台風が多かった2004年の10月、小さいながらも元気な産声を上げた日本クリティカルケア看護学会は、当時の予想をはるかに越える成長と活動の活発化を成し遂げました。その裏には学会役員・執行部、事務局の方々尽力と、20回の学術集会を成功裏に成し遂げた歴代の学術集会長・事務局、委員・ボランティア・アルバイトの方々、そして何より学会員一人一人のお力があることは言うまでもありません。

今回、20年前の学会設立趣意書を読み直し、21年目のスタートとして以下の言葉を改めて皆様に贈らせてください。

「日本クリティカルケア看護学会 設立趣意書」より抜粋

『本学会は看護職を中心とした学会運営を行い、クリティカルケア看護学に関わる多くの看護職者が集結し、人々に貢献するクリティカルケア看護学の確立と発展を目指すことを意図している。具体的には、ICU・CCU看護、急性期看護、周手術期看護、救急看護はもとより、在宅医療や終末期看護でのクリティカルケアや、クリティカルケア看護に関する基礎教育・継続教育・生涯教育、キャリア開発や、クリティカルケアに携わる看護職の役割拡大など、様々な領域、場所や場面、状況を包含し、クリティカルケア看護に携わる実践・教育・研究者の柔軟な発想と新たな概念を基盤としたクリティカルケア看護の専門性構築に挑んでいきたい。さらに本学会は、これまでのこの領域、関連領域の研究会、学会の功績に敬意を表し、有機的な連携と協同を図っていきたい。』

学会の設立と運営には、会員や看護・医療のみならず、社会や人々への責務も伴う。学会設立はスタートラインに立ったに過ぎないが、1歩ずつ歩み出しその歩みを重ねていくことに意義を見いだしていきたい。』

2. 第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会を終えて



日本クリティカルケア看護学会
第20回学術集会長

宇都宮 明美 氏

初秋の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
この度は、第20回日本クリティカルケア看護学会学術集会の開催にあたり、格別のご支援とご高配を賜り、誠にありがとうございました。

本学術集会におきましては、8月末日をもちまして、無事閉会いたしました。
1700名を超える方々に参加登録をいただき、演題アクセス総数は約9000と多くの皆様にご参加いただくことができました。

沖縄の現地開催では、学術集会2日前に梅雨明けとなり快晴の2日間でした。参加者の多くは「かりゆし」を着て、どの演題も素晴らしく、各会場では発表者と参加者の熱いディスカッションがあったと聞いております。またオンデマンドセミナーは若手看護師から中堅看護師に向けてコンパクトにまとめていただき、どれも学び直しができるものでした。

現地では会場前にキッチンカーが並び、会場内には沖縄物産展もあり、「ゆんたく」では琉球大学法政エイサーの皆様のご協力をえて、伝統芸能である「エイサー」を鑑賞し、参加者で「カチャーシー」を踊り、沖縄の味・物・文化に触れる機会となりました。

開催にあたりましては至らぬ点多々あったと存じますが、何卒ご寛容の程、お願い申し上げます。ご参加の皆さま、企画委員、運営委員、実行委員、沖縄の会員・看護学生の皆様、ボランティアの皆様には、直接御礼を申し上げるべきところではございますが、このニュースレターをもちまして御礼のご挨拶とさせていただきます。



3. 委員会報告（国際交流委員会）

【WFCCN参加報告】 一国独立して天下も独立

東京情報大学 看護学部 看護学科
成人・高齢者領域 松石 雄二郎

2024年5月9日に世界クリティカルケア看護連盟（WFCCN）国際会議に参加した報告と、そこで得た学びについてご報告いたします。この会議は、集中治療領域に従事する看護師たちが世界各国から集まり、知識や経験を共有し、今後の協力体制を強化することを目的としています。私はバーレーン、ポリビア、チベット、マレーシアなどの国々の代表者と主に意見交換を行い、各国で直面している課題について議論し、多国間での協力の重要性を改めて認識しました。

今回のWFCCN国際会議では、いくつか重要な学びがありました。まず、集中治療看護領域では、まだ国際的な協力が十分に進んでいない現状を再確認しました。多くの国では、集中治療看護の標準化や技術の共有が十分に行われておらず、今後の課題として国際的な連携強化が必要であると感じました。また、若手看護師の育成に対する危機感が強く、離職率が高いことが浮き彫りになりました。国ごとに育成体制や支援プログラムが異なるため、離職防止のための国際的な知見の共有が必要であると痛感しました。

これらの点を踏まえ、本邦でも若手看護師の育成支援プログラムの充実が求められると考えています。他国の研究成果を国内に適応する際、文化的背景の違いも考慮する必要があります。質の高い他国の研究から得た知見を単純に導入するだけでは不十分であり、本邦に適した研究を実施することで、初めて本邦に最適な方法が見つかると思います。つまり他国の追従のみでなく、他国の研究の改良という国際標準の視点が、日本に求められていると考えます。

そして、この国際標準の本邦の知見を他国と共有し、共通点や文化による差異を明らかにすることで、全世界のクリティカルケア看護の発展にも貢献できる日本となるのではないのでしょうか。今後、このような本邦での教育の発展の重要性を強く感じる経験となりました。



4. 編集後記

沖縄に降り立った学会前日は、関東の“梅雨入り宣言”と沖縄の“梅雨明け宣言”が出た日でした。肌寒い関東と打って変わって、灼熱の沖縄で、第20回の記念すべき学術集会が始まりました。学会は、その天候に負けないぐらいの熱い議論や発表が繰り広げられ、多くの学びを得られた学会となったと思います。某大学の講堂で行われたプレ学会に参加してから、20年が過ぎたのだと自分自身の歩みをも思い起こしておりました。本学会は、次の10年に向けて益々飛躍していくと思います。今後も新たな知見を皆様と共有し、共に成長していけることを願っております。

広報委員 森安恵実

広報委員会 委員長：森一直 担当理事：茂呂悦子
委員：池辺諒、中嶋武広、渡海菜央、森安恵実、劔持雄二